

松江だんだん夏踊りに参加しました

8月27日(土)に姉妹都市提携を結んだ松江市で開催された「松江だんだん夏踊り」に大口町からも参加しました。

「松江だんだん夏踊り」とは、「踊りを通して市民活動・市民交流の推進」を目標としたイベント。

松江城の石垣を背景としたステージでは、市内の公民館からなるチームなど多くの団体が鳴子踊りや伝統的な夏踊りといったさまざまなジャンルの踊りを順に披露し、会場を盛り上げていました。

日も暮れ始めた頃、いよいよ大口町チームが登場。松江市の皆さんが見守る中、無事踊りきると会場からは大きな拍手。最後にメンバーの



▲ブース「お城のピアガー殿 (でん)」。会場はグルメも充実!

MCが「堀尾吉晴公のご縁でこのような機会を得られました。これから大口町と末永くお付き合いいただければと思います」と結びました。



▲開会式では「松江城鉄砲隊」により古式火縄銃が実演されました。



▲大口町職員・大口中学校教頭・教諭のメンバーからなるチーム「Cafe・de・Oguchi」の演舞

現在も大口町役場より東日本大震災復興支援のため宮城県南三陸町へ職員が派遣されています。

南三陸町派遣職員レポート

平成23年3月11日から、5年以上が経過した、今の南三陸町をお伝えします。

東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた南三陸町では、魚市場も例外ではありません。

旧市場は、津波により壊滅的な被害を受け流出してしまいましたが、平成23年10月には、仮設の市場が整備され、そこで競りが行われてきました。

今年の6月1日には、南三陸町地方卸売市場が完成し、町民の「なりわい」である漁業が大



きな復興の一步を踏み出しました。ここでは、ウニやホヤ、ギンザケ、ホタテ、タコなど、南三陸町を代表する海産物が取引きされています。

また、7月30日(土)には志津川湾夏まつり、8月7日(日)には歌津復興夏まつりが開催され、多くの方で賑わいました。

津波により甚大な被害を受けた南三陸町ですが、一歩ずつ確実に復興を遂げています。

完全な復興には、まだまだ時間がかかると感じています。ですが、「なりわい・賑わい」を取り戻しつつあります。



▲志津川湾夏まつり



▲南三陸町地方卸売市場